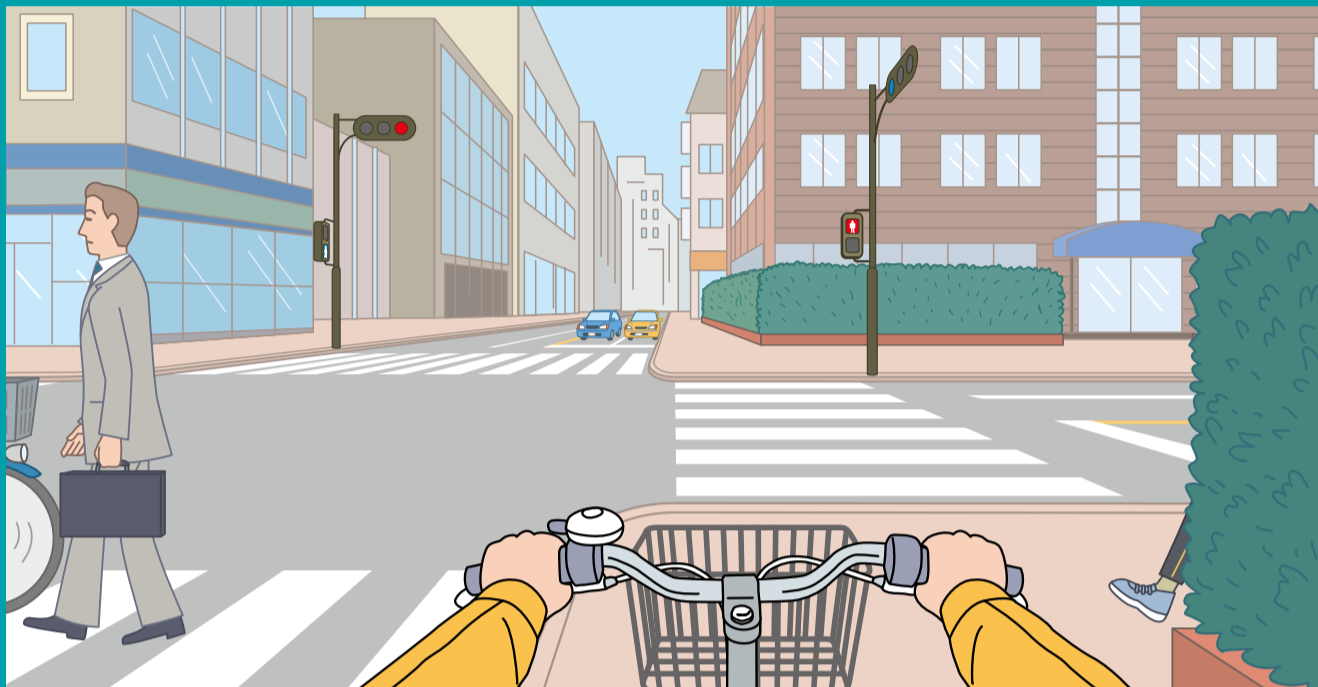


KYT 危険予測トレーニング

第 82 回 歩道を通行している時（自転車編）

あなたは自転車通行可の歩道を走っています。
信号機のある交差点にさしかかりました。
安全に走行するためには、
どのようなことを予測する必要がありますか？



交通事故を防止するためには、路上で出会う様々な危険を予測することが大切です。このコーナーでは危険感受性を高めるための題材を提供します。今回は自転車利用者に、歩道通行中の危険について考えてもらうための KYT です。

活用方法

1. 少人数のグループをつくります。
2. 「交通場面のイラスト」を見ながら、意見を出し合います。
3. その後、「解答・解説※」を参考にして、どんなことに気をつければ良いか再び話し合ってください。

※「解答・解説」と「交通場面のイラスト（カラー・A4版）」は下記 SJ ホームページでご覧いただけます。また PDF ファイルもダウンロード（無料）できます。

【使用上の注意】

ホンダ SJ 検索

- 営利目的での利用はおやめください。
 - 内容の無断転載、無断改変、一部抜粋しての利用はおやめください。
 - その他、使用に関するご質問はお問い合わせください。
- 本田技研工業（株）安全運転普及本部
TEL : 03 (5412) 1736 E-mail:sj-mail@spirit.honda.co.jp

© 本田技研工業（株）

SJ クイズ ?

自転車編

- Q1** 2020 年の自転車対クルマの交通事故件数を事故類型別にみると、半数以上は出会い頭事故です。このうち自転車側に法令違反があった割合は何%でしょうか？
①約 48% ②約 63% ③約 78%
- Q2** 2020 年の自転車対歩行者の交通事故における自転車の法令違反別歩行中死者・重傷者数においては、自転車側が 100%法令違反をしていました。最も多い違反は次のうちどれでしょう？
①一時不停止 ②安全不確認 ③前方不注意
- Q3** 2020 年のヘルメット非着用の自転車乗用中死者を人身損傷主部位別にみると、56%が頭部です。ヘルメット非着用の致死率は着用の場合の何倍でしょう？
①約 2 倍 ②約 3 倍 ③約 4 倍



「解答」は P6 下、「解説」は下記 SJ ホームページでご覧いただけます。
<https://www.honda.co.jp/safetyinfo/sj/>

「危険予測トレーニング (KYT)」DVD 第 3 巻を発売

Honda のウェブページで連載している「危険予測トレーニング (KYT)」を収録した DVD の第 3 巻を発売しました。四輪車、二輪車、自転車、歩行者の 카테고리ごとに動画で再現された交通場面のケーススタディが 25 パターン収められています。インターネットに接続することなく、コンピューター上で再生でき、インタラクティブな操作もウェブ版と同じです。企業・自治体の研修など、お子さまから高齢者の方まで楽しく学んでいただけます。交通事故防止をめざす教材としてご活用ください。



3,960 円 (税込) 別途送料



DVD に関するお問い合わせ先
本田技研工業（株）安全運転普及本部
TEL : 03-5412-1736
Email:safety-driving@spirit.honda.co.jp

SJ 編集部だより ~交通事故死者ゼロをめざして~

Honda は「2050 年に全世界で Honda の二輪車・四輪車が関与する交通事故死者ゼロをめざす」という目標を掲げました。交通事故死者ゼロによって実現する「安全」と、その先にある「安心」という新たな価値の創造に寄与するため、読者の皆様とともに交通社会のあるべき姿を考えてまいります。

今号では自転車に関連する内容を数多く取り上げました。2021 年の交通事故死傷者数は 36 万 4767 人と前年から 2%減少しましたが、自転車乗用中に限ると 3%増加しています。コロナ禍で公共交通機関を使わず自転車で移動する人や、自転車による宅配の利用が増えたことが一因となっているのかもしれませんが、四輪車にはシートベルトやエアバッグなど、事故の際、乗員の被害を軽減するための安全装置

が備わっています。また、二輪車には乗員にヘルメットの着用義務があります。

では、自転車はどうでしょう。子ども（13 歳未満）にはヘルメットの着用が保護者の努力義務となっていますが、当紙の観察結果でも示されたように全員が着用しているわけではありません。大人でヘルメットをかぶって自転車に乗っている人は、まだまだ少数です。

自転車の交通事故の相手は多くが四輪車であり、大きな被害を受けるのは自転車です。場合によっては死にいたることもあります。自転車利用者もライダー、ドライバー同様に危険を予測した安全運転が大切であることはいうまでもありません。そして万が一に備えて、少しでも被害を軽減するためにヘルメットを積極的に着用してほしいと思います。